

昭和45年度芸術祭参加

第12回定期演奏会

日本音楽集団

昭和45年10月19日(月)

午後7時開演

日本都市センターホール

曲 目

1. 三本の尺八のためのスペース／仲俣 申喜男

尺八 I 古 賀 将 之
尺八 II 坂 田 宏 聰
尺八 III 宮 田 耕 八 朗

2. 天 如 ／三木 稔

二十絃箏独奏 野 坂 恵 子

3. 和楽器によるマティエール／田中利光 <委嘱作品・初演>

演奏 日本音楽集団
指揮 田 村 拓 男

— 休 憩 —

4. 二つの舞曲／長沢勝俊 <初演>

- 一 章
- 二 章

演奏 日本音楽集団
指揮 山 田 一 雄

5. くるだんど／三木 稔

奄美の旋律による混声合唱と日本楽器のためのカンタータ

- I くるだんど と 掛声 (いとう)
- II 舟 歌
- III 八月踊り

演奏 東京放送合唱団
日本音楽集団
指揮 田 村 拓 男

PROGRAMME

1. "SPACE" FOR THREE SHAKUHACHI / NAKAMATA, Nobukio

KOGA, Masayuki
SAKATA, Kōsō
MIYATA, Kōhachirō

2. TENNYO / MIKI, Minoru

Twenty-string Koto solo by
NOSAKA, Keiko

A commissioned Work by ENSEMBLE NIPPONIA

3. MATIERE BY JAPANESE INSTRUMENTS / TANAKA, Toshimitsu

<First Performance>

ENSEMBLE NIPPONIA
Conducted by TAMURA, Takuo

————— intermission —————

4. TWO DANCES / NAGASAWA, Katsutoshi

<First Performance>

1st Movements
2nd Movements

ENSEMBLE NIPPONIA
Conducted by YAMADA, Kazuo

5. KURUDANDO / MIKI, Minoru

*A Cantata for Mixed Chorus and Japanese Instruments based on melodies
Amami province*

I Kurudando and Itō
II Barcarol
III Dance of August

TOKYO BROADCASTING CHORUS
ENSEMBLE NIPPONIA
Conducted by TAMURA, Takuo

1. 三本の尺八のための〈スペース〉

作曲 仲俣申喜男（なかまた・のぶきお）。1969年度作品。

委嘱 NHK

初演 1969年。横山勝也リサイタル。

演奏時間 12分。

演奏者

尺八 I 古賀将之

尺八 II 坂田宏聡

尺八 III 宮田耕八朗

この曲は、昨年（69年）春、NHKの委嘱によって書いたものです。初演は同年夏の横山勝也さんのリサイタルで、「尺八三本会」の人たちによって行なわれました。

今春新しく録音放送されるにあたり、改訂をほどこしましたので、今夜の演奏が改訂後の舞台初演になります。

曲名の〈スペース〉というのは“空間”という意味ですが、3人の奏者の各々の内的リズム（＝呼吸）の中から旋律がめばえ、成長し、受けつがれ、交錯し、重なり合っていく、あたかも嶺々の間を吹き渡る風のような音楽を書きたいと思ったのです。

（仲俣申喜男）

2. 天如（てんにょ）

作曲 三木 稔（みき・みのる）。1969年度作品。

委嘱 野坂恵子

初演 1969年。野坂恵子リサイタル。

演奏時間 15分。

演奏者

二十絃箏独奏 野坂恵子

“私たちにとって創造の行為は、いわば無から有を生む虚構に過ぎないかも知れない。だがそのうたかたの仮面の下には、偽りのない素顔を持ちつづけたい。それはつきつめれば、もはや人の上なる「天」の理性すなわち「如」にしか俟つことができない。”（初演のプログラムにおける作曲者のことばから）

二十絃箏は、日本音楽集団のおしすすめている運動の精神に沿いつつ、野坂恵子によって開発された楽器である。彼女は昨年11月、この二十絃箏によるリサイタルを行なって芸術祭優秀賞を受けた。この時、4人の作曲家がこの楽器のために作品を書いたが、「天如」はその中でただ一つの二十絃箏独奏曲である。

箏を演奏会場に適した楽器にするために、いくつかの工夫が施されているし、この「天如」も演奏上の現代的な高度な技巧が要求されている。

二十絃箏と「天如」は、しかし、箏であり「古典」である。

（鞍掛昭二）

3. 和楽器によるマティエール

作曲 田中利光（たなか・としみつ）。初演。

日本音楽集団の委嘱による。

演奏時間 13分。

演奏者

箏 白根きぬ子、野坂恵子。

十七絃箏 宮本幸子。

三絃 杉浦弘和、坂井とし子。

琵琶 山田美喜子。

篠笛 望月太八。

尺八 宮田耕八朗、古賀将之、坂田宏聡（客演）。

打楽器 芹沢英雄（客演）、雨宮靖和（客演）、清水義矩。

プリペアード・ピアノ 川崎祥悦（客演）。

指揮 田村拓男

この曲は和楽器への提案として、寧ろ和楽器を否定的な角度から捉えようとした実験的な試作品です。楽器の持っている数多い制約（伝統的な調絃、旋法、奏法など）にあまりこだわらず、演奏技法の開発による新しい可能性の追求に焦点をしばって書いたわけで、結果的に或いは洋楽的な発想につながるものかも知れません。……が、念頭から離さなかったのは寧ろ絵画的発想……パレットの中の世界であり、カンディンスキーの“熱き抽象”であったわけで、楽曲構成はすべて色彩的配慮からなされています。

この曲は日本音楽集団の委嘱により1970年8月作曲したものです。この機会を与えて下さった日本音楽集団の方々には深く感謝するとともに、私に作曲の委嘱をして下さったことと、また私が演奏家として信頼を寄せているの方々によってこの曲が演奏されること、以上二つのことをとても光栄に思っています。

（田中利光）

4. 二つの舞曲

作曲 長沢勝俊（ながさわ・かつとし）。初演。

演奏時間 13分。

演奏者

箏 白根きぬ子、坂井とし子。

二十絃箏 野坂恵子。

十七絃箏 宮本幸子。

三絃 杉浦弘和。

琵琶 山田美喜子。

篠笛 望月太八。

尺八 宮田耕八朗、坂田宏聡（客演）、古賀将之。

打楽器 芹沢英雄（客演）、雨宮靖和（客演）、清水義矩。

指揮 山田一雄（客演）。

舞いは「まわる」という語から発生したものであり、踊りは「跳躍」という意味をもっているといわれている。また舞はいくぶん重々しく、踊りは軽快な動きのものが多くともいわれている。しかし私はこの曲の中ではあえて「舞い」と「踊り」の区別はつけなかった。民族芸能の中にある「舞い」や「踊り」を素材とした自由な舞踊曲であり、民衆の持つたくましいエネルギーを表現したいと希った。

一章は深い悲しみと抵抗の曲であるが中間部では明るい明日への夢をうたっている。

二章ははげしい群舞の饗宴である。

なお楽器編成に於ては集団の活動の中から生れて来た二十絃箏を使うことにより箏の中音域での充実と表現の拡大を図った。

(長沢勝俊)

5. くるだんど

奄美の旋律による混声合唱と日本楽器のためのカンタータ

作曲 三木 稔。1963年度作品。

委嘱 南日本放送。

初演 1963年。放送および東京尺八三重奏団第2回定期演奏会。

演奏時間 16分。

演奏者

三絃 杉浦弘和、野坂恵子、坂井とし子。

十七絃箏 宮本幸子。

篠笛 望月太八。

尺八 宮田耕八朗、古賀将之、坂田宏聡(客演)。

打楽器 芹沢英雄(客演)、雨宮靖和(客演)、清水義矩。

合唱 東京放送合唱団

指揮 田村拓男

奄美には、為政者と労働者の激しい相克の歴史が秘められている。奴隷たちは、黒い雨雲の出現を見て「黒(くる)だんど」と叫んだ。雨中でも止むことのない作業の苦痛を予見した、切実きわまる声である。

I くるだんど と 掛声(いとう)

II 舟歌

抑圧された人々の、束の間のいこい。はかなくも美しいひととき。

III 八月踊り

奄美のエネルギーの爆発。抑圧への反動が一気に燃焼し、人々は踊り狂う。

(1969年の、日本女声合唱団と男声合唱団東京リーダーターフェルのジョイント・コンサートのプログラムより)

日本音楽集団のレパートリーは、その上演される条件によって三つの種類に分けることができる。その1は、せまい意味で、演奏団体としての集団のレパートリーで、「古代舞曲によるパラフレーズ」(三木)のように他の団体では演奏不可能のものである。その2は、集団が単なる演奏団体ではなくて、音楽運動をおすすめている団体として世に送りだした、広い意味でのレパートリーで、「子供のための組曲」(長沢)や「箏四重奏曲」(長沢)、「三本の尺八のためのソネット」(三木)などのように、他の団体、ときにはアマチュアの団体でも演奏されるものである。そして

その3がこの「くるだんど」のように、他の演奏団体との協演によって初めて演奏可能のものである。

協奏する団体が、その曲に、あるいはたがいに、適合する資質を持つかいかは、曲のいのちにかかわる問題である。その点、本日協演する東京放送合唱団と集団とは、「くるだんど」に関するかぎり、たがいに選ばれた相思相愛の仲とあって良いだろう。

(鞍掛昭二)

指揮をするようになって

集団の演奏家の中では、洋楽的（今日に於ては洋楽も邦楽も区別なく、現代の音楽として、あるのみですが、敢て使わせて頂くなら……）な道を通って来た私ですが、集団の人達と一緒に音楽をしていて感ずることは、彼等には豊かな個性があり、精神があり、人間があり、のびのびとした根っ子からの演奏家の姿が見えると云うこと。これらは、その素晴らしい音と共に、まさしく日本の生きたマティエールなのです。このマティエールを、どのようにして結集し、方向づけるか、又それが何であるかを探し当てて、作品を呼び起し、演奏家の力が結集出来た時、一つの結果が出ることでしょう。

私は春の演奏会から打楽器の演奏の他にまとめ役にまわることになり、色々考えさせられています。

色々なオーケストラを経験し、沢山の指揮者を見、桐朋の斎藤秀雄先生に教わっている指揮のことや、私なりに得たヨーロッパ音楽の概念と、集団結成以来、この素晴らしい人達から肌で感じとったものとの両方を、深く見極め、新しいアンサンブルとして、何か独自のものを作り出したいと思っています。

1970年10月

田村拓男

集団「友の会」（仮称）について

おかげさまで日本音楽集団も次第に活動範囲が広って参りました。今迄定期会員という名称で参加して頂いていた同好の人のための企画を練り直して、私たちの運動がお互いにより親しく判りあえるようにしたく真剣に考えています。

1971年度からは「友の会」（仮称）として定期演奏会（6月2日11月10日都市センター・ホール）への御招待の他、各種の催しへの御案内（可能な限り御招待）を事務局より直接差上げる予定です。

'71年度会費 1,500円

現定期会員には追って御案内いたしますが、以外の方で入会御希望の方は、会場受付に名簿を用意しましたので、住所・氏名を御記入下さい。

お知らせ

●このたびコロムビアレコードから〈日本音楽集団による 三木稔の音楽〉10曲が、全曲スコア付、LP4枚組で発売されます。くわしくは裏面の広告をごらん下さい。

また、RCAレコードから発売される〈響 和楽器による現代日本の音楽〉LP4枚組の中に長沢勝俊作曲「人形風土記」、八村義夫作曲「しがらみ第2」（日本音楽集団第11回定期演奏会・委嘱作品）の2曲が、集団の演奏により収録されています。右頁広告参照。

●来年の定期演奏会は

第13回 6月2日（水）「凸」（三木稔）、「孤響」（三木稔）、「委嘱作品」（三宅榛名）他

第14回 11月10日（水）長沢作品のみによる公演。

いずれも都市センターホールに決定いたしました。

●10月29日イイノホールで行なわれる「東京放送合唱団第27回定期演奏会に、集団が出演し、「三つの阿波のわらべ唄」（三木稔）を演奏します。

●横山勝也、宮本幸子、野坂恵子は、それぞれ来年リサイタルを行なう予定です。

●横山勝也は渡欧中のため今回は休演いたします。

日本音楽集団

(箏・三絃)	坂井とし子	(尺八)	古賀将之
(箏)	白根きぬ子	(指揮・打楽器)	田村拓男
(箏・三絃)	野坂恵子	(打楽器)	清水義矩
(箏・十七絃)	宮本幸子	(作曲)	長沢勝俊
(琵琶)	山田美喜子	(作曲)	三木稔
(三絃)	杉浦弘和	(作曲)	元橋康男
(篠笛・能管)	望月太八	(コンサート ディレクター)	鞍掛昭二
(尺八)	横山勝也	ゲストメンバー(竜笛)	芝祐靖
(尺八)	宮田耕八朗		

■ プログラム編集・製作 = 鞍掛昭二 / 印刷 = 北星印刷

■ 日本音楽集団 150 東京都 渋谷区 神宮前 3-6-14
TEL (402) 0709

これぞ現代人が求め続けていた新しい"ひびき"

日本の代表的作曲家たちが伝統的な和楽器のために作曲した現代音楽の傑作の数々！
第一流の演奏家たちをここに結集して完成した音楽の新しいジャンル

《昭和45年度芸術祭参加》



響音 Hibiki

和楽器による現代日本の音楽

Contemporary Music for Japanese Traditional Instruments

■多くの人々に知っていただきたい……

菅野浩和氏

ここ数年来、洋楽系の作曲家が日本の伝統楽器に取組んだ仕事がいそう目立つようになってきて、着々と傑出した作品をこの分野に登場させるようになってきた。十年前のこの領域での成果の僅少さくらべると、全く今昔の感に耐えない。もはや今日では、洋楽器の世界、日本楽器の世界と、狭いセクト観を持つことなど、もはやナンセンスになってしまった。

こういう時点に当って、こうした洋楽系作曲家による日本楽器作品のダイジェスト的集大成レコードを完成したことは甚だ意義が大きい。私自身、ある程度、この企画の相談にもあずかったりしているので手前味噌になりそうだが、しかし良いものは良いという見地から、やはりこうした重要な音楽を持つレコードができた以上は、それがなるべく多くの人々に知ってもらいたいという希望をもつことは許されてよいと思う。単に国内に止まらず、外国に出したときに大きな評判を呼ぶだろうことも想像している。

《収録作品》

清瀬保二：四重奏曲～日本楽器のための／伊藤隆大：六重奏曲／
小山清茂：四重奏曲第1番～和楽器のための／清水脩：三つのエ
スキス／間宮芳生：四面の箏のための音楽／入野義朗：尺八と箏
の協奏的二重奏／石桁真礼生：箏のための組曲／八村義夫：しが
らみ第2／武満徹：エクリプス／諸井誠：対話五題／広瀬量平：
二つの尺八のためのアキ／長沢勝俊：組曲「人形風土記」／牧野由
多加：太禱協奏曲

《演奏者》

日本音楽集団（八村義夫、田村拓男＝指揮）／邦楽四人の会
〈箏〉後藤すみ子、矢崎明子、沢井忠夫、沢井一恵、菊地梯子、
高畑美登子、和田克子
〈尺八〉北原篤山、酒井竹保、青木静男、横山勝也、山本邦山
〈十七絃〉菊地梯子、宮本幸子
〈箏篋〉芝祐靖
〈琵琶〉鶴田錦史
〈打楽器〉雨宮靖和
〈地唄三絃〉矢崎明子
〈養太夫三絃＝太禱〉松浦君代

●JRZ-2505～8 30cmステレオLP 4枚1組 ¥8,000
豪華カートン・ボックス入 別冊解説書付

RCAレコード

 発売元 日本ビクター株式会社

＊人間回復を願い現代音楽に青春をもたらす“憧れ”の作曲家と若き名匠たち！

日本音楽集団による

三木稔の音楽



りんりんと天に鳴る箏！
蕭然と地をひらく尺八！
飄々たる琵琶！
切り裂き打ち込む
三絃・打楽器群！

これら甦った音たちの息づく10作は現代の日本音楽の聖典である。



〔収録曲目〕

●序の曲 ●天如 ●ソネット ～3本の尺八のための～ ●コロムビア委嘱作品 凸 ～三群の三曲と日本太鼓のための協奏曲～ ●はばたきの歌 ●コロムビア委嘱作品 孤響 ～独奏尺八のための～ ●箏譚詩集 ●四群のための形象 ●古代舞曲によるパラフレーズ ●くるだんど ～奄美の旋律による混声合唱と日本楽器のためのカンタータ～

〔演奏者〕

日本音楽集団 (横山勝也^(尺八独奏) / 野坂恵子^(箏独奏) / 望月太八 / 芝祐靖 / 宮田耕八朗 / 古賀将之 / 杉浦弘和 / 山田美喜子 / 坂井とし子 / 白根きぬ子 / 田村拓男 / 清水義矩) 増田順平 / 増田睦実 / 東京ゾリステン / 日本合唱協会 / 東京放送合唱団

☆指揮・秋山和慶

★グラフィックデザイン・田中一光

▶JX-21～4 30cmステレオLP 4枚組 ¥7,200 (別冊解説書・別冊総譜付)

▶発売日 11月3日

レコードのお問合せは、お近くのレコード店又は直接下記までお尋ね下さい。☎107 東京都港区赤坂4-14-14 日本コロムビア株式会社学芸部販売課 TEL 03(584)8111



●驚異の再生音・マスターソニックレコード！再生時の音のひずみをすべてとり除いたノン・ディストーション・カッティングによる最新レコードです。

コロムビアレコード